

フィルムスクラッチ

削ったり、色をつけたり。フィルムスクラッチでは自分なりの表現を楽しめる。適当に削っても想定外の動きがまた面白い。最後はみんなの作品を一つにつないで鑑賞会。子どもたちは楽しみながら、映画の仕組みやフィルムの特徴を理解することができます。ビデオもカメラもデジタル化した今だからこそ、フィルムを使ったワークショップは魅力溢れるものとなるでしょう。

1. 準備しよう

■フィルムスクラッチには、次の物が必要です。

＜映写に必要な物＞

- ・16ミリ映写機1台
- ・16ミリフィルム
- ・スクリーン
- ・入手可能であればスプライサー ※1
- ・セロテープ

＜制作に必要な物＞

- ・フィルムを「削る」ための道具
(ニードル、画鋏、ヤスリなど)
- ・カッターマット
- ・油性のマジックペン各色

※1 スプライサーとはフィルムを切ったりつないだりする専用の道具ですが、現在入手困難となっています。準備出来ない場合は、後述する方法で映写可能です。(項目4をご参照下さい。)

■事前の準備。

- ・フィルムを5秒分(1秒24コマ×5=120コマ)に切り分けておきます。
- ・見本となる作品を作成しておきましょう。

2. やってみよう (カギ括弧内は司会者が話すべき内容)

1. はじめの挨拶

「映画を作ってみよう。」「自分の好きな映画を作ろう。」

2. 見本作品の鑑賞

「どうやって作ったと思いますか？」

3. 映写機やフィルムについて説明

「フィルムを手にもってみましょう。」「手に持っている長さでどのくらいの時間だと思えますか？」

「穴と穴の間が1コマ、24コマで1秒です。」

「1時間の映画だとどのくらいの長さかな？」

4. 制作方法の説明と注意事項

「フィルムには表と裏があります。間違うと一生懸命描いても映りません。」

「試しに1コマ削ってみましょう。すぐ削れて白い線が出れば表です。」

「フィルムの穴(パーフォレーション)が左にくるようにしましょう。」

「フィルムは縦に映ります。縦にして絵を描いてね。」

5. 作業開始

「ではまずはフィルムを削るだけ。やってみましょう。」「ではこれから絵を描いてみましょう。」

☆スタッフ：作業しやすいようにフィルムをテープでとめる。

6. 作業終了

「みんなでみるために、フィルムを一本につなぎます。」

☆スタッフ：スプライサーでフィルムをつなぐ。

7. 鑑賞会&感想発表

「やってみてどうだった?」「思った通りにできてたかな?」「どんなことが難しかった?」

フィルムスクラッチ

3. 注意しよう

・フィルムの向きをチェックする。

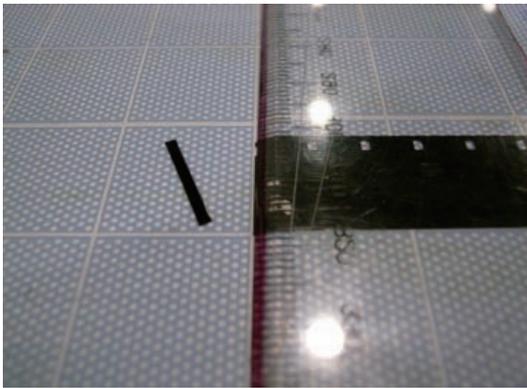
フィルムの向きを間違っているとせっかく描いた絵や文字が反対に映ってしまいます。必ず表面の状態が穴が左に来るようにしてあげましょう。

・フィルムの中で絵を描ける範囲を伝える。

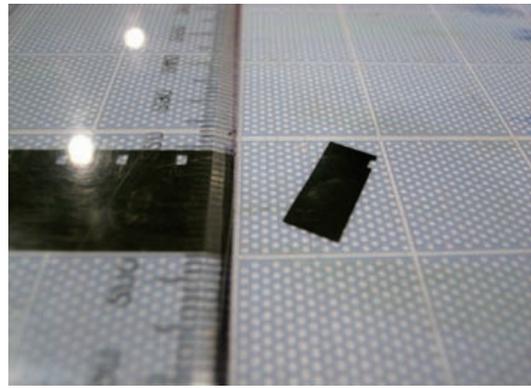
フィルムには絵を描いても映らない場所があります。穴の空いている部分の内側から反対側のうっすらと線が入っているところ（音声記録される場所）までの間に絵を描きましょう。

なお、プログラムの構成に際して、最初の時間は「削る」、次の時間は「絵を描く」、最後に「両方のやり方を組み合わせる」というように作業内容を制限すると、よりいっそう学習効果が高まるでしょう。

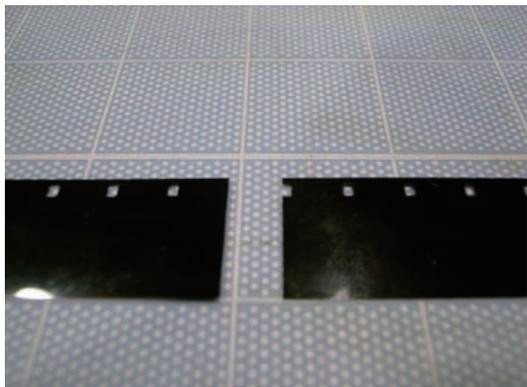
4. スプライサーを使わずにフィルムをつなぐ場合



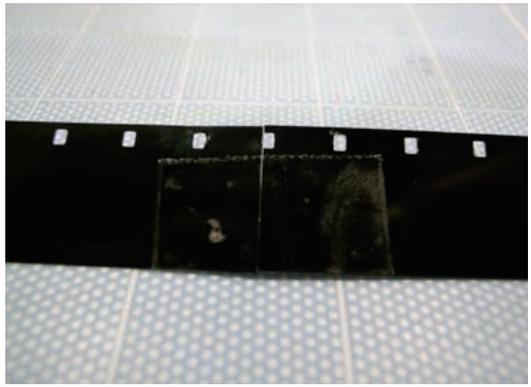
①カッターマットのマス目等を利用して、フィルムの穴の左端に合わせて、垂直にフィルムを切り落とします。



②同様につなぎたいフィルムの穴の右端に合わせて、垂直にフィルムを切り落とします。



③フィルムをつなぐ準備が整いました。双方のフィルムを曲がらないように慎重にテープでつなぎ合わせます。



④フィルムの穴を避けるようにテープを貼れば、完成。

*この他にもいくつかの方法が考えられますが、フィルムの穴（パーフォレーション）の間隔（約6ミリ）がずれないことが肝要です。時間のかかる作業なので、事前準備でフィルムを切り分ける際に、①と②の作業を済ませておくと便利です。